学校NOW! 学校歳時記

共創で目指す新たな学校づくり

教育創造研究センター所長　髙階（たかしな）　玲治（れいじ）

学校の教育目標を見直す

次期学習指導要領は冒頭に新しく「前文」が掲載された。従来は「総則」が最初で「教育課程の一般方針」が示されていた。今回，「前文」が載ったのは，学校教育法の条文である「学校教育の目的・目標」の確認である。

以下の要領の内容は，その目的・目標を実現するための具体的な内容である。

つまり，目的・目標を大きく掲げながら，具体的な学校教育の在り方を「総則」以下に示すという形である。

個々の学校の実際を考えてみても，最初に「校訓」があって，学校教育目標が示される。更に年度重点目標や経営方針がある程度具体的に作成される。

ただ，そうした目標や方針は，かなり包括的・抽象的な表現になっていて，実践と乖離している例がみられる。つまり，学校の教育目標のレベルが個々の教員の具体的な実践方略になかなか結び付かないという課題である。

そこで最近多くなっているのが，実践志向の目標表現である。それは例えば，①学力の向上，②豊かな心の育成，③開かれた学校の推進，などのレベルではない。一見，今日必要とされる課題のようにみえるが，なお包括的・抽象的である。

校訓や学校教育目標などの包括的・抽象的な目標は「ハードな目標」である。飾りものになっている例が多い。

個々の教員の実践に結び付くためには「ソフトな目標」が必要である。例えば，①わかる・できるを実感できる授業の工夫改善，②発達段階に応じた学習規律の徹底，③基本的な生活習慣の定着を図る取組，などである。「ハードな目標からソフトな目標への転換」である。

ただ，具体的な目標表現に変えると，３つでは足りなくなる。また，授業の改善は多様であるし，学習規律の徹底と言われても教員の判断に差異が生じる。

しかし，一般的には学校の教育目標は年度初めに校長から示されるだけで，実践にどう生かすかは事後の取組になる。

共創としての学校づくり

これからの学校は，教職員が決められた職務をこなすだけでなく，統合された組織目標に向けて協働的に取り組む必要がある。共創としての学校づくりである。

「共創」とは，組織の目指すビジョンや目標に向けて，成員全体が気持ちを一つにして協働的・創造的に目標達成に努力することを意味する。そのような共創的な組織風土が必要である。

それは決して不可能ではない。学校は企業と比較すると小規模で，フェイス・ツウ・フェイスの関係があってまとまりやすい。小集団組織の機能を持っていることから，その「強み」を存分に発揮したい。

学校の組織目標の達成の場合も，あれもこれもではなく，優先事項を決めて全員で取り組むなら，具体的な指導方略が個々の教員に広がりやすい。そのためには「ハードな目標」レベルではなく,「ソフトな目標」

に具体化し，実践可能なレベルで共通認識することが大切である。

更に共創の学校づくりにとって大切なことは，教職員間の雰囲気を明るくすることである。例えば，「わかる・できるを実感できる授業の工夫・改善」を組織目標にした場合，職員室などで「今日の授業，子どもがすごくアクティブだった。発問を工夫した甲斐があったよ。」「最近，家で復習だけでなく，予習する子どもが増えてきた。発表に自信がみられるようになった。」などの話題が職員室で交わされるようになれば雰囲気として上々である。

とかく，多忙化のせいで孤立しがちな最近の教師個々を組織目標に向けて取り組むことで，共創の雰囲気のよさを自覚させたい。

そのためにも，学校が目指す目標やビジョンについて，教職員全員が積極的に取り組む学校づくりを目指したいと考える。

組織目標と個人目標の統合を目指す

共創を目指す学校づくりとして，学校の教育目標について更に考えたいことがある。

それは，組織目標は学校全体の目標であるが，その目標達成には学年の発達や個々の子どもの指導によって違いがあるということである。「わかる・できるを実感できる授業の工夫・改善」といっても，例えば小学校の場合，1年生と6年生ではかなり違う。つまり，学年に応じて適切な指導が必要である。

そこで個々の教員は，年度初めに提示された組織目標について，自分の学級に応じて目標の具体化が必要である。「私の学級はこうしたい」という教員個々の個人目標の設定である。

特に，多忙な学校では，組織目標が年度初めに一度きり説明されただけ，しかもトップダウンで示されたために，あとは学級担任まかせになりやすい。そうであっても，共創としての学校づくりを進めるためには，組織目標と個人目標の統合が重要である。そして個人目標が確立されれば，学年の指導の積み重ねが可能になる，教員間のヨコ連携も豊かになる。

一般的に，組織目標と個人目標の統合には次のことを重視したい。

①管理職と教職員が一体になるための相互信頼を重視する。

②よい指導のあり方や悩みなどについてコミュニケーションの場がある。

③学年・学級，個々の子どもに応じた適切・柔軟な対応ができる。創造的な対応も重視される。

④具体的な成果がみられたか，ある程度の評価ができる。

⑤目標を達成する努力が個々の教員の成長につながる。

学校の組織目標は単なる御題目ではない。子どもに具現化することを目指す必要がある。その意味で，学級や教科の授業等において成果を上げることである。組織目標を個人目標化することの大切さである。

そのことを校内で充実するために，目標具現化を優先した協議の時間を持ちたい。特に学年内の相互交流の機会を増やしたい。必要なのは個々の教員の力量アップである。それが子ども個々の資質・能力の形成に直接結び付く。

共創による学校づくりは，個々の教師力アップと共に，学校力アップを果たすことが可能になる経営戦略でもある。

新教育課程の実施に向けて学校は今後，一層の複雑で困難な課題に直面することが予測されている。新たな課題をどう乗り超えるか，学校力が問われることは確かである。

学校NOW! 笑顔がいっぱい

児童が安心して登校できるための指導体制づくり

袖ケ浦市立長浦小学校教諭　平野（ひらの）　太一（たいち）

1　いじめアンケート

本校では月に一回，全ての児童575名を対象に「いじめアンケート」を実施している。アンケート用紙は，昨年度より形式を変え，記述式で回答できるようにした。それには二つのねらいがある。

⑴児童の様子を具体的につかめる

例えば質問に「いやな気持ちになるような，悪口を言われたことがありますか。」「わけもなく，ぶたれたり，けられたりしたことがありますか。」「遊びの時，仲間はずれにされたことはありますか。」といった項目がある。これに対して，回答の選択肢は「ない」か「ある」のどちらかである。もし「ある」を選択した場合には，更に具体的に言われた回数に丸をつけるようになっている。こうすることで，「ある」を選択した児童がいた場合，どれくらいの頻度で被害をうけているのか，具体的に調査することができる。

⑵教師に相談しやすいアンケートの工夫

選択式のアンケートは，全ての児童が何らかの項目に丸をつけることになる。よっていじめの被害を訴えたい児童が，「ある」に丸をつけたことが周囲から目立たなくなる。もし，アンケートを記述式にしてしまうと，いじめの被害を訴えたくて，長く文章を書いている児童が目立ってしまう。アンケートの最後には，「あなたが今，困っていることで先生に相談したいことはありますか。」という項目を設けた。児童にとって回答がしやすいアンケートになるよう配慮をした。いじめはどの学級にも発生する可能性がある。そのため子どもたちが，アンケートを通して教師に相談しやすくなるように，配慮をした。

2　定期的な生徒指導会議

本校では月に一回，全職員参加のもと，生徒指導会議を行っている。児童の様子を詳細につかむことが，日々の指導の充実につながっていく。生徒指導会議の運営は以下の通りである。

⑴事前に報告シートを作成

会議の一週間前に各学年に「報告シート」を作成してもらう。報告シートとは，各学年の児童の様子を文章で記述するものである。もし生徒指導の案件が発生した場合には，「案件の詳細」「指導の内容」「その後の様子」を書くことになっている。

⑵全職員に報告シートを印刷して配付

会議の際，全職員の手元には全ての学年の報告シートがある。紙媒体での報告をすることで，より細かく児童の様子を情報交換できるようになった。

また，生徒指導会議で使用した報告シートは，生徒指導主任がファイルに保存するようにしている。これにより，児童の様子を長期的につかむことができる。

3　スクールカウンセラー（SC）との連携

本校には，週に一日SCが勤務している。悩みを抱える児童，不登校になっている児童，そしてその保護者と面談をする環境が出来ている。面談を通しての児童の様子は，管理職や担任教師などに適宜報告をされる。児童が安心して登校できるための指導体制づくりに役立っている。

千葉歴史の散歩道

日本遺産「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」を巡る

文化財課指定文化財班・主任上席文化財主事　立和名（たちわな）　啓人（ひろと）

昨年４月，「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」が千葉県で初めて，日本遺産に認定された。北総の四都市とは，現在でも江戸を感じる町並みが残る佐倉・成田・佐原・銚子である。日本遺産は，各地の文化資産を組み合わせたストーリーを国が認定し，文化財を観光，地域振興に役立てようとするものである。文化資産をテーマに多くの人々に認定地を訪れてもらい，地域の活性化に貢献してもらうとともに，地元の方々には，我が町の宝を再認識し，文化資産の保存･活用に力を注いでもらうというものである。

まずは，多くの人々に，この地を訪れてもらわなければ意味がない。そこで，今回は日本遺産「北総四都市江戸紀行」のストーリーを実感できるような観光コースを紹介したい。題して「江戸を感じる旅－魅力満喫コース」３泊４日の旅である。北総４市を３泊４日は，ちょっと長い旅かもしれないが，１市を１日かけてじっくり，ゆっくり巡る。

ひよどり坂（佐倉市）

１日目は，佐倉を巡る。国立歴史民俗博物館を見学後，佐倉城跡・武家屋敷群・旧堀田邸・佐倉順天堂記念館を巡り，城下町佐倉のまちを堪能する。特に武家屋敷通りや，ひよどり坂は今にも侍が出てきそうな雰囲気がある。佐倉を巡った後，宿泊地の成田に向かう。

２日目は成田市。まずは宗吾霊堂を訪れ，宗吾の一代記を見てみよう。そして成田山新勝寺に移動する。ボランティアガイドの方と境内を巡ろう。緑豊かな成田山公園もぜひ訪れたい。門前町成田を実感できる成田山表参道を散策し，遅めの昼食は鰻。成田市最後の見学地として，成田市さくらの山公園を訪れたい。「江戸を感じる」とは，かけ離れるが，飛行機の迫力満点の離発着を見ることできる。

３日目は，銚子に移動。銚子ちぢみ伝統工芸館で藍染の体験をし，飯沼観音を訪ね，銚子漁業発祥の地である外川の町並みをのんびり散策。犬吠埼灯台を見学し，宿泊は，太平洋を一望できる犬吠埼温泉郷で決まり。

４日目は佐原を巡る。小野川周辺の商家の町並みを巡る。伊能忠敬記念館や山車会館を見学。歩き疲れたら，歴史的な建造物を活用したレストランやカフェで休憩もよいのでは。

香取神宮に移動し，黒漆塗の本殿・拝殿を見学する。最後は，道の駅・川の駅水の郷さわらでお土産を購入し，魅力満喫コースは終了となる。個々の見学地は，定番の場所ではあるが，日本遺産のストーリーを感じながら，じっくり見学すると４市の魅力を再認識できるのではないだろうか。

今回のコース以外に北総四都市江戸紀行の公式ホームページや公式アプリには，モデルコースを紹介している。ぜひ，アクセスしていただき，北総四都市を訪ね，江戸の情緒を感じていただきたい。

千葉教育　萩（No.６４５）　平成２９年８月２５日発行
編集・発行　千葉県総合教育センター　（代表）安　藤　久　彦
〒261-0014 千葉市美浜区若葉２－１３　ＴＥＬ０４３－２７６－１２０４
ＵＲＬ　http://www.ice.or.jp/nc
印　刷　所　株式会社白樺写真工芸
〒263-0002 千葉市稲毛区山王町１０２－５　ＴＥＬ０４３－４２３－１１０１